

生物多様性 [自然共生社会を構築するために]

2010年10月、愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されました。

愛知県に本社があるユニーは、「テーブルの上の生物多様性」をテーマに、日常生活を通じてお客様と一緒に自然共生社会の構築に取り組んでいます。

いのちと暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間も含めた様々な生物が生まれ、つながり合って生きてきました。この生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）によって、私達の命や暮らしは支えられています。

しかし現在世界中で多くの生物種が絶滅の危機に瀕しています。生物種の減少の原因のほとんどが開発や乱獲、外来種の持ち込みなど、人間の活動にあるといわれています。人間は、地球生態系の一員としてほかの生き物との共存を求められているにもかかわらず、一方的に生き物に影響を与え、絶滅の危機を引き起こしているのです。

種の多様性

いろいろな生き物がいること

生態系の多様性

様々な環境があること

遺伝子の多様性

それぞれの種の中でも個体差があること

生物多様性の保全活動

●生物多様性条約

第10回締約国会議（COP10）

生物多様性条約締約国会議は、条約を結んだ国が約2年ごとに集まり、生物多様性を守り、それが絶えることなく存続するための仕組みや遺伝資源の利益を公平に分ける仕組みなどが話し合われます。COP10は2010年10月11日から29日までの3週間名古屋市で開催され、成果を上げることができました。

●名古屋議定書

私達の生活には、医療品をはじめとして生物の機能や形状を利用した製品が数多くあります。これらの開発で得た利益をその遺伝（生物）資源の原産国に公平・均衡に配分するという、国際ルールが名古屋議定書です。未開発地域や途上国の資源、伝統知識を先進国が一方的に利用してきたことへの是正となるものです。

●愛知ターゲット

2020年に向けて、生態系の保全を中心とした目標として、生物多様性の失損速度を抑えるための具体的な数値も決めています。生物多様性の認識を高め、持続可能な産業を促進し、絶滅危惧種の中でもっとも減退している種の保全状態を改善していくことを目的に、「悪化した生態系の15%以上を回復すること」「陸地については17%」「海域については10%」の保全を明記しています。

生物多様性を守る取り組み

私達が生きるために必要な酸素は植物によってつくられ、汚れた水も微生物などによって浄化されています。そして私達人間は、いろいろな生き物からの様々な「恵み」をもらって生きています。こうした「恵み」を与えてくれる「生物多様性」を育む環境で作られた食べ物や製品を選ぶことが「生物多様性」を守ることに繋がります。ユニーでは、お客様が買い物をする事で生物多様性を守ることに繋がる取り組みを「供給作用」を通して行っています。

サポート

- 生息地
- 栄養
- 水
- 土壌の形成

緩和作用

- 気候変動を緩和
- 害虫・病気・汚染を制御

供給作用

食料・繊維・燃料・淡水・遺伝子・資源の供給

文化的効用

精神・宗教的価値・知識・教育・インスピレーション・レクリエーションや美しいものの提供

エコ野菜



サスティナブルコーヒー

バイオマスプラスチック



リサイクルトイレットペーパー



サスティナブルコーヒーフォーラム

COP10協賛事業として、2010年10月「サスティナブルコーヒー協会」と協働で名古屋市で開催しました。コーヒーの原産国は途上国が多く、さらに生物多様性が失われつつある地域が多いため、生産地の生物多様性を保全しつつコーヒーを栽培し続けるために、消費者である私達が「サスティナブル（持続可能な）コーヒー」を選んで飲むことが支援につながります。サスティナブルコーヒー協会は「サスティナブルコーヒーの普及に貢献し、コーヒーを通じて生産国の自然環境・社会経済のサスティナビリティの維持向上に寄与する」ことを掲げているNPOです。



世界の環境団体がコーヒーを通じて環境貢献を発表



おいしいサスティナブルコーヒーの試飲を会場で実施